

結城紬生産技術研究会

篠塚 雅子* 中野 睦子* 本庄 恵美*

1. はじめに

結城紬産地の課題のひとつに後継者の確保・育成があげられる。

結城紬の生産工程は、ほぼ全てが手作業であり、各生産者が長年の経験により培われた技術によって、生産に取り組んできている。これまでの結城紬の後継者は、それぞれの生産現場で繰り返し生産に携わりながら、独自の技術を継承することで育成されてきた。しかし、近年は複数の指導者による育成体制をとることが多くなってきていることから、将来にわたり効果的な人材の育成を図る必要性が望まれている。

2. 目的

結城紬の工程は細かい部分も含めると約 40 以上の工程がある。

本研究会では、各工程（表 1）について、生産者と情報・意見交換しながら、結城紬の各生産工程技術をまとめ、テキスト化することを目的としている。また、併せて工程の再検証や技術情報の共有を図っていく。

3. 活動内容

本年度は、無地・縞の製織前の準備工程である下ごしらえ及び糸つむぎについて、テキスト化に向けた活動を行った。

なお、工程のテキスト化に向けては、最適な条件の選定ではなく、初心者または経験の浅い従事者が、技術習得にあたり、参考となる標準的な手法を会員の意見をもとに検証し、まとめていくことを中心としている。

表 1 研究会活動計画

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
1. 無地/縞下ごしらえ	→				
2. 緋製作		→			
経緋糸作成(括り)		→			
緯緋糸作成(括り)			→		
緋糸作成(直接染色)				→	
3. 製織				→	
4. 糸つむぎ	→				
5. テキスト案作成					→

3.1 無地/縞柄下ごしらえ

1) 第 1 回研究会

開催日：平成 29 年 7 月 7 日

参加者：5 社

内 容：研究会趣旨説明

糸揚げから下糊付け実施例の紹介

- ・当所における実施例の紹介
- ・各企業での実施事例について



図 1 第 1 回目研究会

2) 第 2 回研究会

開催日：平成 29 年 12 月 18 日

参加者：7 社

内 容：整経・本糊付け工程に関する意見交換

- ・当所における実施例の紹介
- ・各企業での実施例について
- ・試験報告：下糊浸けの浸漬時間差による糊付け加工について



図 2 第 2 回研究会

3) 第 3 回研究会

開催日：平成 30 年 3 月 22 日

参加者：3 社

内 容：機巻き・小巻き等工程に関する意見交換

- ・当所における実施例の紹介
- ・各企業での実施例について

3.4 糸つむぎ

糸つむぎの工程については、従事者等から個別に聞

き取り調査及び意見交換，工程記録作業を5回にわたり実施した。

4. 結果

4.1 無地/縞柄下ごしらえ

結城紬で使用する手紬糸は，ほぼ撚りのない独特の糸を使用する。そのため糸を補強する工程である「糊付け」は，重要な工程となるため，特に活発な意見が交わされた。

経糸の糊付けの回数としては，かせの状態での下糊付けが2回，整経後の本糊付けが1回，合計3回が一般的であるが，糊の濃度，浸漬時間，絞り率等，細かい条件での違いがみられた。

当所では，研究会での意見をもとに，下糊付けの浸漬時間の違いによる糊の加工性や箆への耐摩擦性等について，評価試験を行い，報告した。

表2 糊加工性（増加率）試験 結果例

	1回目 (%)	2回目 (%)
浸漬時間なし	7.7	1.1
30分浸漬	10.1	2.4
60分浸漬	8.9	1.4
油分添加30分浸漬	10.1	2.7

4.2 糸つむぎ

糸つむぎ工程は手の感覚，経験による部分が大きい。そのため，従事者から動作や手法など詳細に聞き取り，動作の表現方法など協議を重ねた。手順の撮影は角度や位置を検証しながら，記録作業を行った。

テキスト案については，画像とともにイラストを加え，初心者が参考にしやすいよう，数値の表記が可能な箇所については，目安となる値を記載した。

なお，今回作製したテキストについては，結城紬産地で実施の糸つむぎ者養成事業で，参加者に配布している。

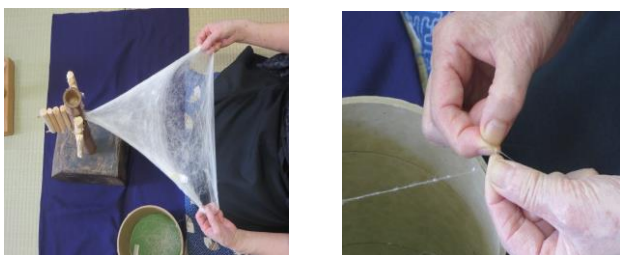


図3 技術調査

今後，テキスト使用者から，内容について聞き取り調査を行い，必要に応じて改良を加えていく予定である。

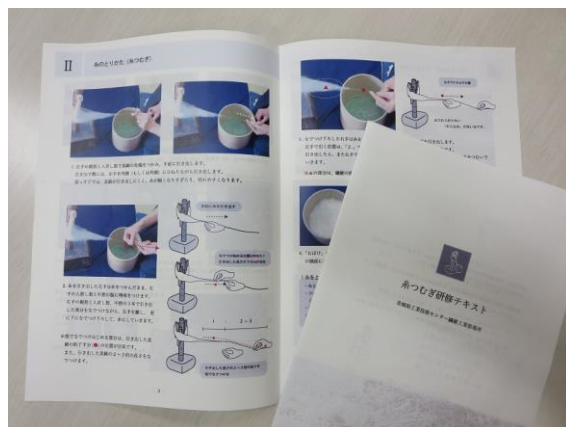


図4 糸つむぎ研修用テキスト

4. まとめ

これまで，作業内容の細かい点まで生産者同士で改めて議論する機会がなかったこともあり，研究会では活発な意見交換が行われた。研究会を通して，自社で実施の方法との違いなど，情報を共有することで作業工程を再確認する機会が得られたと感想も聞かれた。

今後も引き続き，テキスト化に向けて活動を実施するとともに，研究会を通じ技術情報の共有や工程の再検証を実施し，生産技術の向上や改善の支援を実施していく予定である。